

管理者・リーダーとしての 部下育成の心得

部下をもったら、預かったら、その人を必ず育てるという信念を持つことが大事です。自分のスキルアップは大事だが、人を育てることに注力すると、自ずと自分がスキルアップしていくものです。様々な部下育成方法がありますが、ここでは7つの心得として紹介します。

① 高い目標を掲げよ

どの職場においても、その職場に即して目標が必ずあるはずですが、誰でも納得できる理念をもって、その目標は高くおいて臨むべきです。高い理想には、高い意欲が応えていくものです。

② 方針はしつこく繰り返す

方針は一度言っただけでは浸透しないものです。見えるところに掲示し常に意識をもたせ、重要なことは繰り返し何度も言い続けることが大事です。

③ 上司からの指示を噛み砕き「翻訳」して部下に伝える

会社方針や更に上長からの指示については、そのまま伝えるだけでは、ただのメッセンジャーです。自分なりに指示を「消化」、「翻訳」し、自分の言葉で伝えるようにすると納得して前へ進んでいくものです。

④ 曖昧な指示を出さない

目標や様々な指示については、必ず目標値や期限を明確に伝えることです。更にその理由、背景等を説明して難しいことは文書化して伝えることが大事です。

⑤ 相手を変えるな！自分が変われ！

部下の能力、理解力、推進力等は1人ひとり違うもの。実行、実現に向けて、相手を変えるように説得したいものです、自分が柔軟に変化し、その人に合った対応をとったほうが簡単なことが多い。立場にこだわり過ぎない方が上手くいくものです。

⑥ 相手の土俵に乗る

部下を納得させる場面等で、上司としてはメンツもあることから、自分のやり方、自分の土俵にこだわって対応してしまいがちだが、それではコミュニケーションは図れない。相手の土俵に乗って対応することです。

⑦ 部下の側にたって、上司とやりあう

問題解決や指導時において、上長から様々な要望・要求が浴びせられる事もありますが、必要な時には部下の側に立って、上長とやりあうことが、百の言葉より一の実行になります。部下が注目するのはここであり、部下との信頼関係を築くことに繋がります。



長嶺 堅二郎

